*Center for Urban and Regional Studies* ISSN 0913－7181(1)

# CURES NEWSLETTER 地域経済ニューズレター

1995. 7 .31 No.35

## 巻頭言

# 環日本海学会の設立について

藤田暁男

環日本海学会は、1994年11月、新潟での創立大会において発足した。この設立のきっかけをなしたのは、環日本海国際学術交流協会（会長・山村勝郎＝環日本海学会副会長）が日本学術会議経済研究地域体制研究連絡委員会と共催で、93年6月に開催した「日本海学術交流金沢シンポジュウム」であった。最終日の議論で、学会設立準備を金沢（大学）と新潟（大学）で担うことが望まれるということを含む集約がなされたのである。しかし、実際のところそのような学会が果たしてできるのか、どんな学会にするのか、事務局をどこが担うのか等、具体化の道は霧の中であった。その後、上記協会事務局・理事会を中心に論議され、学会事務局を新潟（大学）にお願いする線で話を進める事になり、金沢と新潟との話合いが重ねられた。そして、新潟大学環日本海研究会（会長・渋谷武＝環日本海学会会長、事務局・多賀正敏＝環日本海学会副会長・事務局長）が設立準備委員会事務局

■ 巻頭言 ……藤田暁男
■ CURES Report
「INFRASTRUCTURE IN ECONOMIC DEVELOPMENT」……G. BALATCHANDIRANE
■ Topic
「私的所有と社会的所有の間で…ロシアにおける従業員所有企業の試み」…宮崎悦子
■ 地域経済文献情報

金沢大学経済学部

を担う事で、設立への具体化が進むこととなったのである。

これらの設立過程の論議の中で感じたことをいくつか述べてみよう。第1には、環日本海学会なるものの設立自体に、主として日本経済のアジアにおける新たな国際地域「侵蝕」の問題を感じ、問題ありとする研究者が少なからずいることに注意したい。戦後50年の間に、日本の政治も経済も、そしてまた我々研究者も、戦前・戦中の「アジア植民地支配」の非人間的行いを内省するような隣人としての関係をどれほど作って来たであろうか。一部に貴重な実績があるとは言え、全体としては寂しい限りである。その状況下で、進行中の構造的な長期不況の中で不可避的に噴出するアジア進出、そして、日本経済の力と利害の優位のアジア進出に対し、「新たな侵蝕」を危惧する声は当然出てくる。そこで、だからこそ新たな共生的な隣人関係形成のためにその内実を探究する研究組織が必要であるとする人と、結局はそのような機能の限界を見る人とに分かれることになる。前者の立場をとる我々学会参加者も、この論点の持つ重さに十分心する必要があると思われる。

第2は、「環日本海」という名称の問題である。設立準備会でもそれが適当かどうか大きな論点となった。「日本海」という呼称に近隣の国々が、ニュアンスの差があるとは云え、抵抗を感じていることは明らかである。他方、今のところこれ以外に的確に学会の問題対象を表現する地域名（地名）はなく、また、学会設立の直接的動因となった各地における地域間学術交流もこの名称の下でなされてきたという現実的な背景があった。結局、学会の規約としては異例の事であるが、学会会則に、「本会の名称については、今後本会において討議を重ねていくものとする。」という一項を入れて、ひとまず発足することになったのである。地名も歴史的、社会的産物であるならば、国際関係の成熟の中で変化しうる余地が考えられて良いであろう。

第3は、この学会が出発点において他の学会にない特色を有している点である。その1つは学際性であり、2つは地域的国際性であり、3つは国際的地域性である。

1．学会の学際性自体はそう珍しい事ではないが、この学会の内容をなす「環日本海学」なるものの学問的アイデンティティはどのようなものかということになると、確かなものが用意されてはいるとは言えないように思われる。従って、一定の既存の研究分野の方法をもってこの学会の方向づけをするのはそもそも無理であって、多様さを保証しつつ相互理解の協同的意識を共通の基盤として、自然科学・環境問題を含む多様な対象への協同的な取り組みそれ自体から新たな学会の方向を見いだしていくことになると思われる。

2．この学会は国際的性格の強い学会であるが、この学会自体は出発の形からして日本の学会あることを超える事は実際上むずかしいであろう。従って将来、この地域近隣諸国を中心とする会員と国際的ボードを有し、かつグローバルな、例えば「北東アジア国際学会」といった国際学会ができてもおかしくないし、この学会がその母体の一つになることは大いにありうることであろう。このような

地域的国際研究環境作りの点で、我々は欧米にかなりの遅れを取っているように思われる。

3．これからの共生的な地域間国際関係の進展は、これまでの国家、大企業レベルの機構的な国際関係とは違った、住民レベルの人間関係的な国際関係を一層必要として行くように思われる。それは各地域に根ざした特色を持ち、多様であり、顔をつき合わせた人間的信頼をベースにしたものであろう。そして、この学会形成の土台ともなっている地域の研究活動自体が、これら地域間国際関係の重要な担い手であると共に、その新たな地域間国際関係そのものの究明がこの学会で論議さるべき重要な課題と云えるように思われる。従って、この学会は、地域主導の性格を持った国際的問題の学会という特色を持つことになろう。

（金沢大学経済学部教授）

CURES Report

# INFRASTRUCTURE IN ECONOMIC DEVELOPMENT

G. BALATCHANDIRANE

For a developing economy, infrastructure plays a very important role in facilitating the growth of various sectors of the economy. There has been,till recently,an insufficient appreciation of the crucial nature of the part played by infrastructural aspects in the economic system. So it was entirely befitting that the World Bank devoted its 1994 issue of the World Development Report to the theme: 'Infrastructure for Development'.

What do we refer to as infrastructure in the economic sense? Basically we think of a). transportation and b). communication facilities and c). energy supply as constituting the essential infrastructure for industry in any economy.Other factors like water supply, waste disposal etc, can also be included under infrastructural facilities.

Industries that provide the infrastructural facilities have certain properties that set them apart from other industries. One, infrastructure industries provide services and output that are directly necessary for most other sectors of the economy. Few industries can flourish without proper transport facilities enabling raw materials to flow to their factories and their finished products reaching the market. Fewer still can operate without power. Two, infrastrucure industries need vast sums of capital to be developed. It is easy to see that the development of roads, dams, ports etc, consume large amounts of capital. A corollory of this is that it is the state which has been the investor in most countries in infrastructure industries. Thus, till very recently the state has been having monopoly control over infrastructure industries in a number of countries. Hence, with very little competition and being a government run service, losses and inefficiencies have not been infrequent in infrastructure industries.